

# 令和4年度 横浜市立浦島小学校 学校説明会



- 1 校長あいさつ
- 2 中期学校経営方針について
- 3 今年度の主な変更点について

○中期学校経営方針は、学校ホームページに掲載します。

○学校説明会の動画をアップしています。

# 1. 校長あいさつ

ご縁がありまして今年の4月に、本校に校長として着任しました藁科直希です。これまで浦島小学校に関わってこられた教職員、保護者、地域の皆様、そして学校の主役である子どもたちがつくり上げてきたこの浦島小学校の伝統やよさを守りつつ、新しい時代の変化にもしっかりと対応していきたいと思ひます。学校教育目標の「自ら学ぶ子」の実現に向けて、次のような学校づくりをめざしていきます。「うらしま」にちなんで、

- ① えをめざして (自分を高める 課題解決能力)
- ② 自分らしく あなたらしく (自己肯定感 共生 尊重)
- ③ あわせいっぱい (自分の幸せ みんなの幸せ)
- ④ なび合い 認め合い 高め合う 笑顔あふれる 学校

「① えをめざして」…「自分を高める力」や様々な「課題を解決していく力」は、これからの変化の激しい時代を子どもたちがよりよく生きていくために求められる力です。自分で考え、判断し、行動することができる力を育むことができる学校をめざします。

「② 自分らしく あなたらしく」…自分はあるのままの自分でいいのだという「自己肯定感」は、いろいろなことに挑戦、取り組んでいくための土台、原動力となります。様々な人と「共生」し、自分も周りの人も「尊重」する力、対話やコミュニケーションを通して相手を理解したり、対立を解決したりする力は、多様性が求められる時代に必要な力です。子どもたちや教職員一人ひとりが安心して自分らしさを発揮し、生き生きと過ごすことができる学校をめざします。

「③ あわせいっぱい」…これからの時代は自分の幸せだけでなく、社会全体やみんなの幸せを考える視点が求められています。学校にかかわる誰もが幸せを感じられ、共に成長することができる学校をめざします。

子どもたちの心に火を灯し、「やってみよう」「わかった」「できた」「楽しい」を味わうことができる教育活動を実践し、「④ なび合い 認め合い 高め合う 笑顔あふれる 学校」となるよう全教職員が一丸となって取り組んでまいります。保護者、地域の皆様と共に歩んでいきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

## 2 中期学校経営方針について

今年度より、中期学校経営方針の見直しが図られ、新たな取り組みが始まります。

### (1) 授業改善

① 他者との関わりを通して合意形成していくことができるように、コミュニケーション力に焦点をあてた研究を推進していく。その中で、話し合い場面やグループでの学習場面など、視点を明確にして研究を深められるようにしていく。

② 子どもの思考の深まりを促す効果的なICT機器、特にタブレットの活用ができるように、日常的に活用場面を試行錯誤しながら授業に臨む。

学校教育目標「自ら学ぶ子」を目指すために、浦島小で育てたい資質・能力は、「課題解決の力と自分づくりに関する力」です。

2つの資質・能力について低学年、中学年、高学年の具体的な子どもの姿を示した下の表になります。学年の実態、各教科や行事等の系統性やつながりを大切にしながら、教職員が共通理解のもと教育活動を進めていきます。

また、今年度は、「コミュニケーション力」に焦点をあてた研究を推進していきます。昨年度の学力・学習状況調査の生活意識の結果より、話し合い活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすることに苦手意識を感じている子どもが多いことから、他者との関わりを通して合意形成ができる子どもの育成を目指すこととしました。そのために算数科の授業を通して、話し合い場面やペア・グループトーク、タブレットを活用した共同思考等の視点を明確にしながら研究を深めていきたいと考えております。

	自分づくりに関する力								課題解決する力							
	コミュニケーション力				自己肯定感				課題の発見・気づき	解決方法の決定	実践(解決・追究)	ふり返り				
高学年	話し手の意図を考えながら聞き、良いところを取り入れたり、悪いところを認めたりできる。	目的や意図に応じて、根拠を基として自分の考えをまとめたり、発表したりできる。	自分と異なる考えや立場を大切にしながら、協働することができる。	様々な人の立場を理解して、場にあった良い言葉遣いや態度をとることができる。	話し合いの中で互いの考えの相違点を考えながら聞き、合意形成していくことができる。	自他の良さや長所を認め、成長を実感したり、言葉で表現したりできる。	自分の強みや得意なことや得意なことを理解し、活動に生かすことができる。	(失敗よりも成功を意識して)積極的に人やお事に挑戦することができる。	自分で判断し、(自信をも)ち断ることができる。	集団の一員として自分の役割に気づき、他者の考えと比較し、責任をもってやり遂げることができる。	目標を自覚したり、学習する意義を見いだしたりできる。	課題解決のために必要な計画を立て、見直しをもつて進めたりすることができる。	様々な情報や他の考えを基として、よりよい考えを切り出すことができる。	様々な視点(既知の知識や経験等)から、課題に対する予想や仮説を立て、方法や手順を考へることができる。	「他者の考えを的確に図や表などを用いて表現できる。」 「よりよい解決に向けて、粘り強く継続できる。」 「他者から得た考えや意見を踏まえ、自分の考えを再構成できる。」	「自らの学びを自覚し、学んだことを学習や活動へのつながりや次のように生かすか考えることができる。」
中学年	話し手を考えながら聞き、良いところを取り入れたり、悪いところを認めたりできる。	目的や意図に応じて、根拠を基として自分の考えを相手に伝えることができる。	自分と異なる考えや立場を相手に伝えることができる。	相手の立場を考慮し、場にあった良い言葉遣いや態度をとることができる。	話し合いの中で互いの考えの相違点を考えながら聞き、自分の考えを伝えたり、自分の考えをまとめることができる。	自他の良さや長所を認め、言葉で表現したりできる。	自分の強みや得意なことを理解し、活動に生かすことができる。	失敗を怖れず、進んで人やお事に挑戦することができる。	正しいと思っ たことを行動に移すことができる。	自分の役割に責任をもつて最後までやり遂げることができる。	目標を自覚したり、学習する意義を見いだしたりできる。	課題解決のために必要な計画を立て、見直しをもつて進めたりすることができる。	「これまでの学習経験から、課題解決の発想をもつて進めたりすることができる。」 「いくつかの解決方法からよりよい方法を選ぶことができる。」	「よりよい解決に向けて、繰り返し挑戦することができる。」 「他者の考えを的確に図や表などを用いて表現できる。」 「意見を聞き合い、比較・分類することができる。」	「学習状況を振り返ることを通じて、自分の成長を実感したり、今後の努力点等に気づけたりすることができる。」	
低学年	良いところを見つけたら、話を聞くことができる。	理由とともに、自分の考えを伝えることができる。	自分と異なる考えや立場を伝えることができる。	人や場にあったあいさつや、言葉遣いができる。	話し合いの中で自分の考えや自分の考えを伝えたり、自分の考えをまとめることができる。	自他の良いところを見つめることができる。	自分の得意なことや得意なことに気づくことができる。	興味をもって積極的に人や物事に関わることができる。	やりたいうことを見つけることができる。	仲間意識をもつことができる。	自分のやりたいことが分かる。	解決の方法を知り、試してみることができる。	「自分の考えを絵や図などを用いて表現できる。」 「聞いたことや調べたことを通じて、考えを表現することができる。」			

質を高めていく。

<p>(2) 豊かな心</p>	
<p>①児童の人権意識を高められるように、人権の指導計画の充実を図る。</p> <p>②互いのよさを認め合い、自己肯定感を高めることができるように、身に付けさせたい資質能力を明確にしたたてわり活動を行う。</p> <p>③自己肯定感を意識した教育活動を進めていけるように、カリキュラムマネジメントを推進する。</p>	<p>1つ目の具体的取組として、児童の人権意識を高められるように、人権の指導計画の充実を図ります。人権週間を中心に、年間を通して「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校をめざした取組をしていきます。</p> <p>2つ目として、互いのよさを認め合い、自己肯定感を高めることができるように、身につけさせたい資質能力を明確にしたたてわり活動を行っていきます。毎年たてわり活動は行っていますが、今年度は、各学年のめあてをより明確に設定し、そのめあてを意識して子どもたちが活動に取り組むことができるように全教職員で指導・支援していきます。また、たてわり活動の内容についても検討し、より充実した活動をめざしたいと思います。</p> <p>3つ目は、自己肯定感を意識した教育活動を進めていけるように、カリキュラムマネジメントを推進します。日常的にカリキュラムを確認し、どの場面でどのような自己肯定感を高めていくか、実践を考え、学年研などで共有していきます。</p>
<p>(3) 健康安全教育</p>	
<p>①心身の健康に対する意識を高められるように、すすすく会議を年2回行い、健康課題を把握する。</p> <p>②体力の向上を図ることができるように、体育の学習をより一層充実させていく。</p> <p>③自らの安全を確保するための判断力や行動力を育成できるように、ねらいを明確にした避難訓練を行う。</p>	<p>浦島小の子どもたちの実態を踏まえ、3つの取り組みを推進していきます。</p> <p>1つ目はすすすく会議の取り組みです。子どもたちが日常の中で健康的な生活を自然と取り組むことができるように、子どもの思いを大切にすすすく会議を実施していきます。</p> <p>2つ目は体力向上の取り組みです。1人の教員が学年全体の体育の指導にあたるという本校の特徴を生かし、学習カードの工夫や場の工夫、指導の工夫など、体育担当で情報を共有して体育の指導にあたることで、子どもの体力向上を図っていきます。</p> <p>3つ目は、避難訓練の取り組みです。子どもが自分の身を守る行動を適切かつ迅速にとることができるように、1回1回の避難訓練のねらい、事前指導や事後指導の在り方を職員で共通理解して避難訓練を実施していきます。</p>

#### (4) 地域学校協働活動

①地域や人を大切にしようとする気持ちを育むことができるよう に、総合的な学習の時間や生活科の学習の中で、地域の材を生かした単元づくりや多様な方々との関わり合いを大切にしてい

②地域の材をより一層生かした学習ができるように、学校運営協議会を年3回開き、教育活動への理解をいただいたり、地域学校協働本部との連携をより一層深めたりする。

地域や人を大切にしようとする気持ちを育むことができるように、総合的な学習の時間や生活科の学習の中で、地域の材を生かした単元づくりや多様な人々との関わり合いを大切にしていきます。

生活科の学習では、通学路探検やまち探検などの学習を通して、地域の人々のまちを思う気持ちや、浦島のまちのよさに気づくことができるよう、体験的、活動的な学習をしています。実際に地域の人と関わって学習する中で、子どもたちは自分たちの生活は、地域の方々に支えられており、これからも浦島のまちを大切にしたいという気持ちをもつことができると考えます。

3年生からの総合的な学習の時間では、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を図っていきます。これは、本校では「浦島の時間」と呼んでおり、これまで、ビオトープの調査と整備、染め物作り、紙漉き、山形県との交流活動などを通して、地域に関わろうとする態度や地域を大切にしようとする気持ちを育んできました。

また、学校運営協議会を年3回開き、教育活動への理解をいただいたり、地域学校協働本部との連携をより一層深めたりします。

本校には、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える組織として学校運営協議会があります。今年度は3回予定しており、1回目は中期学校経営方針についてお伝えし、学校経営方針についてご承認いただくことが中心となります。2回目は、授業参観をしていただき、普段の子どもたちの様子をご覧になっていただき、子どもたちの様子について意見交換をしたいと思います。3回目は、保護者の皆様の学校評価アンケートの結果をご報告し次年度の教育活動の在り方についてのご意見をいた

	<p>だきます。</p> <p>その他にも、子どもたちの地域での様子をお聞きしたり、地域と学校とで連携して取り組んでいく課題等について話題にしたりしたいと考えています。また、その様子については保護者の皆様にも発信し、地域と学校とが連携して教育活動をするようにしていきたいと思えます。</p>
<p>(6) いじめへの対応</p>	
<p>①児童一人ひとりを丁寧に見取り、いじめを生まない 学級、学年、学校の風土をつくり、未然防止に努める。</p> <p>②いじめの早期発見・早期解決ができるように、定期的に児童へのアンケートや面談を実施し、情報収集や学年研での情報共有に努める。</p> <p>③組織的な対応を行うことができるように、認知したいじめ案件をその都度、また、月1回の対策委員会・職員会議で情報共有し、学校全体の問題として解決していく。</p>	<p>第一に、いじめが起こる前に、いじめを生まない風土づくりに努め、未然防止に力を入れていきます。児童指導の活動を計画的に行うと共に、横浜プログラムの推進、人権教育、道徳教育の推進、情報モラル教育の推進、児童理解研修なども行っていきます。子ども達一人ひとりが、集団の一員としての自覚や自信をもてるような指導を行い、互いを認め合える人間関係・学校風土をつくっていけるように最善を尽くします。</p> <p>しかしながら、集団生活の中ではトラブルや喧嘩、いじめ等が起きてしまうことがあります。そのような状況を早く発見することができるように、児童面談や、各種アンケートを定期的実施していきます。気になることがあった場合は、チームでの対応を行います。まず、いじめなどを把握した時点で、直ちに担任、学年主任、専任、管理職、必要に応じて養護教諭で対策チームを結成し、聞き取りの仕方や心のケアなどについて話し合いをします。そして、被害を受けてしまった児童の心に寄り添い、保護者の方とも相談しながら対応を進めていきます。解決した後も見守りを続け、その後の状況を本人と適宜確認したり、保護者の方と連絡を取り合ったりして、安心して学校生活を送ることができるようにします。また、いじめへの対応については、対策委員会や職員会議などで学校全体の問題として共有し、職員全員で子どもたちを見守っていくことができるようにしていきます。</p>

<p>(6) 人材育成・組織運営（働き方）</p>	
<p>①授業力・学級経営力・学年経営力・児童指導・支援に関する力を向上できるように、教科分担制を取り入れたり学年研を充実させたりする。</p> <p>②授業力や教員としての資質能力を高められるように、全教職員が関わりながらメンター研修を行う。</p> <p>③時間を有効に活用できるように、会議内容や方法の精選、見直しを図る。</p>	<p>まず、職員一人一人が授業力などを高めていくことができるように、教科分担制を取り入れたり、学年研を充実させたりしていきます。</p> <p>次に、若い職員が教員としての資質能力を高めていくことができるように、全職員がメンター研修に関わっていけるような取り組みを進めていきます。</p> <p>最後に、会議の内容や会議の方法の精選、見直しを図り、組織全体で時間を有効に活用できるようにしていきます。子どもたちのために、限られた時間で最大限の教育的効果をあげることができる働き方をめざします。</p>
<p>(7) 特別支援教育</p>	
<p>① 基礎学力の定着や居場所づくりができるように、さわやか教室で、支援が必要な児童への個に応じた指導を行う。</p> <p>② SC や SSW、通級指導教室や東部療育センターとの連携を密にする。</p> <p>③ 継続的な支援を実現できるように、個に合った指導・支援計画を作成する。</p>	<p>特別支援教育は、子ども達一人ひとりが持てる力を十分に発揮できるように、学校全体で一人ひとりの特性や状態に応じた指導・支援を行うことを目的としています。</p> <p>そのために、だれもがわかりやすい授業づくりや、掲示物の位置や板書の書き方を統一する教室のユニバーサルデザイン化、特別支援教室での個に応じた指導、支援員さんによるサポートなどを行っています。また、特総センターや療育センター、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家とも連携し、お子さんの支援を行います。</p> <p>取組の1つである「特別支援教室」は、「さわやか教室」と呼び、別室で週に1回45分間、1～4人程度の少人数で学習を行います。さわやか教室では、本人のペースに合わせて、自分の課題に沿って学習を進め、時には前の学年の学習に戻り、既習内容の復習をすることで現在の学習内容がわかるようにサポートします。そして、この教室で学んだことを生かして、自信をもって授業に戻れるよう支援しています。さわやか教室は、今年度より、お子さんの意欲とご家庭のニーズを大切にするため、公募形式に変更させていただきました。それによって、教室自体も例年より早く開始できました。1年生は、後期に募集する予定です。</p> <p>また、特別な支援を必要とするお子さんに関しては、中学まで引き継ぐ「個別の教育支援計画」を作成し、ご家庭とその年々の目標を確認しながら、連続した支援ができるようにしています。</p>

## (8) 児童指導

- ① YP アンケート・プログラムを活用し、学年や学級の風土づくりについて話題にしたり、児童の実態に応じた具体的な取組を実践したりする。また、関係機関の協力を得て、本校の状況に合わせた研修を充実させる。
- ② 児童指導年間計画に基づき、全校でぶれない指導を行っていくことができるように、学年研などで児童指導年間計画に基づいた振り返りを行う。

まず、横浜プログラム、通称YPプログラムというものを活用して、児童指導を行っていきます。横浜プログラムとは、「自分づくり」「仲間づくり」「集団づくり」の3つの視点から、子どもたちの社会的スキルを育成していくことを目指すプログラムです。子どもたちにアンケートを行い、実態を把握した後、実態に合わせたプログラムを行うことで、子どもたちの「自分づくり」「仲間づくり」「集団づくり」のスキルを伸ばしていきます。

また、必要に応じて、関係機関との連携を図り、充実した指導につなげられるようにしています。例えば、保護者の皆様にもよく知られている「学校カウンセラー」。横浜市委託員として区役所の「子ども家庭支援課」に勤務し、臨床心理士等の資格をもっています。子ども、保護者との相談にあたるとともに専門的な立場から教職員への助言をいただいています。また、学校を定期的に訪問し、学校とともに子どもたちの抱える課題の解決にあたる、SSW。子どもと家庭が抱える課題に対して、社会面に焦点をあてながら、受容的にかかわっています。そのほかにも、「警察」「主任児童委員・民生委員のみなさん」「東部療育センター」など多くの機関と連携し、子どもたちの健全育成に努めます。

子どもたちに一貫性のある指導を行い、子どもたちの安心・安全な学びの場を保障するために、児童指導では、児童指導年間計画をもとに見通しをもった指導を行っていきます。そして、月ごとに学年研等で振り返りを行い、常に修正を図りながら子どもたちに適切な指導ができるようにしていきます。



### 3 今年度の主な変更点について

現在、限られた時間で最大限の効果を上げるために、年間の授業時間数の見直しを図っています。同時に、いつ・何を・どのように指導していくかを学校教育全体的な視点に立って見直しを図るカリキュラムマネジメントを推進しています。「授業時間数の見直し」「カリキュラムマネジメントの推進」の視点に立ち、今年度の変更点について説明します。

#### ① カメリンピックについて

- ・今年度以降団体競技は行いません。
- ・リレーは三年生以上で行います。
- ・応援団という形はなくし、6年生のみで構成する応援リーダーが運動会を盛り上げます。

これら3つの変更に伴い、午前開催となります。団体競技の学習をカリキュラムに位置付けることが時数上難しいことリレーの学習は3年生以上で取り組んでいること、休み時間を費やして応援練習をすることで子どもの大きな負担となること、などの理由から変更となります。

#### ② たてわり全校遠足について

これまで、たてわりグループで岸根公園まで遠足に行っていましたが、今年度より校内レクリエーションという形で行います。活動に必要な時間数を最小限としつつ、活動のねらいに迫っていける内容としていきます。

#### ③ たまた箱発表会について

今年度より発表会という形ではなく、総合や生活科の学習の授業参観という形で行います。総合的な学習や生活科の学習での学びの成果を発表会という形で行ってききましたが子どもたちの学習過程を大切にしていきたいという考えからの決定となります。学習過程の中で、「保護者の方に見てもらいたい」「地域の方をおよびしたい」など子どもたちの思いからの発表ということはあるかもしれませんが、全校でそろえて発表会を行うということはありません。

#### ④ いきいきタイムについて

浦島小では、子どもたちの体力向上をめざし、前期は短縄、後期は持久走を毎週木曜日の中休みに取り組んできました。同時に、より一層の体力向上をめざすために、カリキュラムマネジメントを通して日々の体育学習を充実させてきました。中休みがなくなってしまうという子どもたちの負担や昨今のコロナの状況なども考え、いきいきタイムとしての取組はやめ、日々の体育学習の一層の充実を図っていき、子どもたちの体力向上をめざすことにします。

#### ⑤ 宿泊行事について

今年度1年間をかけ、4年生～6年生の宿泊行事について見直していく予定でいます。こちらについては、年度末の学校報告会にて報告させていただきます。

今年度の主な行事予定については、年間の行事予定表を4月26日付で配布しておりますので、そちらでご確認ください。